

第2 歩行用トラクター

1 適用範囲

作業機を装着、けん引又は駆動して作業を行う農耕用のトラクターであって、歩行しながら作業を行うものに適用する。

2 一般事項

(1) 導入

ア 機械の導入に当たっては、価格や性能だけでなく、安全性も選択の基準とすること。その際、一定水準以上の安全性を有する機械であることを示す安全鑑定証票の有無を参考とすること。

中古機械を導入する場合は、安全装備の状態、取扱説明書の有無等を確認し、適切な整備を行っているものを購入するか、又は適切な整備を行うこと。

イ 引渡し時には、機械の操作、安全装置等について十分に説明を受けること。

ウ トレーラーをけん引して道路を走行できるものについては、車両として必要な手続きを行うとともに、必要な運転免許証を取得すること。

(2) 取扱説明書の熟読、保管等

取扱説明書を熟読し、機械の機能、使用上の注意事項、安全装置の使用方法、使用時の危険回避方法等について理解すること。併せて、機械に貼付してある安全標識を確認しておくこと。

取扱説明書は、保管場所を決め、いつでも取り出して読めるようにすること。

(3) 機械の目的外使用と改造の禁止

ア 本来の目的以外に使用しないこと。

イ 改造しないこと。特に、安全装置を取り外さないこと。

3 作業前

(1) 緊急時の停止方法の周知

緊急時に備え、作業機の動力遮断方法、エンジンの停止方法を家族や作業者全員が確認しておくこと。

(2) 適切な服装、保護具の着用等

裾、袖口が締まっている作業服、ヘルメット、手袋、安全靴、保護めがね、イヤーマフ、その他の保護具を着用すること。腰手ぬぐい、首巻タオル、鉢巻をしないこと。

機械へ巻きこまれる恐れがある作業では、手袋を着用しないこと。

(3) 体調

体調が悪いときには、機械の運転をしないこと。

疲労を感じたときには、休憩をとること。

(4) 天候

悪天候の際に、無理して作業しないこと。

(5) 点検、整備

使用前には必ず点検を行い、異常がある場合は整備するまで使用しないこと。

4 運転操作

(1) エンジン始動、発進

- ア 主クラッチ入り切り等の操作方法が機種によって異なる場合があるので注意すること。
- イ エンジン始動は、事前に周囲をよく確認し、周囲に作業者などがある場合は、合図を行い、安全を確認してから、変速レバー、各種作業クラッチレバー等が中立又は停止位置にあり、駐車ブレーキがあるものはそれがかかっていることを確認した上で行うこと。
リコイルスターターを引くときには周囲にぶつからないか確認すること。
- ウ 発進は、周囲に合図をして安全を確認した上でゆっくり行うこと。

(2) 走行、駐車時の注意

- ア 移動は、極力自走せずにトラック等で運搬すること。
- イ ハンドルの向きが変わる機械では、移動時には正規の位置で確実に固定してから行うこと。
- ウ 転倒の恐れがあるので、急旋回はしないこと。凹凸の激しい路面を走行するときには速度を下げること。
- エ 急な傾斜地や坂道では、機械の暴走を招く恐れがあるので変速操作をしないこと。
操向クラッチを有する機械の場合、急斜面では車体がレバーを引いた方向とは逆に旋回することがあり危険なので、操向クラッチを使用せずにハンドルで旋回すること。
- オ 転倒の恐れがあるので、段差のあるほ場への出入りや畦畔の乗り越えは直角に行い、段差が大きい場合には歩み板を使用すること。このときの要領は機械の運搬時と同様にすること。
- カ 挟まれや転倒の恐れがあるので、後退発進時には背後に障害物がないことを確認すること。
- キ 機体から離れるときは、平坦地を選び、エンジンを停止し、駐車ブレーキがあるものはそれをかけ、キーも抜いておくこと。
燃えやすいわら屑や枯れ草等の上に機械を停めないこと。

(3) 燃料補給

- 火災の恐れがあるので、燃料補給するときは、エンジンを停止し、エンジンが冷めてから行うこと。給油中は、火気を近づけず、機械から離れないこと。燃料キャップは確実に締め、こぼれた燃料はふき取ること。

(4) 排ガス中毒防止

- 室内やビニールハウス内では、排ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあるので、十分換気しながら、暖機運転や作業をすること。

(5) 火傷防止

- ア 熱湯が噴出して火傷をする恐れがあるので、運転中、停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないこと。
- イ 点検、整備で内部に触れる場合は、火傷をする恐れがあるので極力機械が冷めた状態で、厚手の手袋等で十分な防護してから行うこと。

(6) 機械の運搬

- トラック等への機械の積み下ろし、運搬の際には、転倒、転落の危険性があるので、以下に留意すること。

ア 準備

- (ア) 運搬用車両には、駐車ブレーキをかけ、車止めで動かないようにすること。

- (イ) 歩み板は、十分な幅と強度があり、かつ、すべり止め処理がしてあるもので、傾斜角度15度以下になるよう長さが運搬車両の荷台高さの4倍以上あるものを使用すること。
歩み板のフックを確実に運搬車両の荷台にかけること。

イ 積み下ろし

- (ア) 誘導者を決め、誘導方法を決めてから行うこと。誘導者は、危険を回避するため、機械の進行経路上に立ったり、機械に接近しすぎたりしないこと。
- (イ) 積み下ろしは、作業機、アタッチメントの状態を考慮し、前後進どちらか適切な方向で行い、極力低速で走行し、歩み板の上では、操向、クラッチ操作、変速操作を絶対にしないこと。
水田車輪や耕うん爪、尾輪等を歩み板や周囲に引っかけないように注意すること。

ウ 機体の固定

十分な強度のロープ、ワイヤーロープ等で固定すること。

エ 運搬時

急発進、急ブレーキ、急旋回を避けること。

(7) 作業機、アタッチメントの着脱

- ア 作業機等の着脱は、平坦で十分な強度を持つ床面上で、かつ、周囲のスペースに十分な余裕がある場所で行うこと。
- イ P T O軸との連結は確実にを行い、着脱時に外した安全カバーは必ず装着すること。
- ウ P T O軸を使用しないときには、P T O軸にカバーをすること。
輪距調節や作業機脱着は支えの台やスタンドを使用すること。

(8) トレーラーけん引時

ア 機械への乗り降り

転落の恐れがあるので、乗り降り時にはステップを踏み外さないよう注意すること。
転倒、転落の恐れがあるので、飛び乗り、飛び降りはしないこと。

イ 運転席まわり

運転席に座って運転操作すること。
足元に物があるとペダルを踏む妨げになり、危険なので置かないこと。
運転者以外に人を乗せないこと。

ウ 積荷の積載時

- (ア) トレーラーの鳥居部分に過大な荷重をかけると折れて押し潰される恐れがあるので、長大物等を多量にもたれかけさせて積載しないこと。
- (イ) 原則として路肩を走行しないこと。やむを得ず路肩を走行する場合には、軟弱でないか十分確認すること。

エ 道路走行時

- (ア) 事故の恐れがあるので、夜間走行では、灯火類を点灯し、必要に応じて低速車マーク、反射板、反射シール等により目立つようにするとともに、最大幅が遠くから確認できるようにすること。
- (イ) 降坂時には、ブレーキの効きが悪くなるので、エンジnbrakeを併用すること。
- (ウ) トレーラーをけん引している場合は、急旋回等を行うとジャクナイフ現象が起こる恐れがあるので、操向クラッチの操作を行わず、ハンドル操作で旋回すること。

5 作業中

(1) 挟まれ、巻き込まれ防止

ア 作業機は、作業時以外は停止させること。不用意にロータリーの下に足を入れないこと。
イ 後進時には、転倒して作業機に巻き込まれる危険性や物と機械の間に挟まれる危険性が高いので、路面やほ場の状態、後方の障害物等に注意すること。

また、後進は、ハンドルが持ち上がりやすいので、エンジン回転を下げ、しっかり押さえながら、ゆっくりとクラッチをつなぐこと。

ウ 旋回は、周囲や足元を確認しながら行い、畔ぎりぎりまで作業しないこと。

エ 衝突や挟まれる恐れがあるので、ビニールハウス等の施設内で作業を行うときは、配管、支柱、誘引ワイヤーなどの障害物に注意すること。

(2) 転倒防止

ア 坂道、傾斜地では、操向クラッチ操作を極力行わず、ハンドル操作で旋回すること。

イ 車軸耕うん式の場合、耕うん作業は、暴走しないように、抵抗棒を作用させて作業すること。

(3) 定置作業

P T O軸にベルトをかけて動力を取り出す作業では、エンジンを回しながらベルト掛けをしないこと。ベルトに巻きこまれないように周囲に柵等を設置すること。

(4) その他

ア 長時間の歩行により疲労しやすいので、休憩を多めにとり疲労の蓄積を少なくすること。

イ 移動走行速度段は、ほ場内作業で使用すると高速になり危険なので、ほ場内作業では使用しないこと。

6 作業後

(1) 点検・整備

ア 作業後の点検・整備を必ず行うこと。その際、エンジンを停止させ、可動部が停止してから行うこと。なお、点検・整備のため外した安全カバーは必ず装着すること。

イ 故障や異常時の点検、巻き付き除去時などにはエンジンを必ず停止させること。

ウ バッテリー充電中は可燃性ガスが発生するので、換気しながら行うこと。

(2) 機械の管理

ア 管理のための記録等

(ア) 運転日誌、点検・整備日誌等を作成し、記録に基づく適正な管理を行うこと。

(イ) 年に1回は認定整備施設等で整備すること。

イ 機械の保管

(ア) 格納庫は十分な明るさが得られるように電灯を設置し、換気窓や換気扇を設置して換気をよくすること。

(イ) キーを抜いて保管すること。

(ウ) トレーラー、直装式の作業機では、格納時に機体を安定させるためのスタンド等が付属している場合は必ずスタンド等を使用すること。これ以外の作業機は、着脱や格納庫内での整理を安全に行うため、キャスター付きパレットに載せることが望ましい。

(3) 機械を貸与する場合

機械を貸与する際には、適切な整備を行い、機械の使用方法、安全上の注意を十分に説明するとともに、取扱説明書の熟読を指示すること。